

第 3 章

人 口

第3章 人口

概況

大阪府の人口(平成13年10月1日現在)は881万5757人で、平成12年より1万676人、0.12%増加し、人口総数は平成11年から2年間は減少し、13年は再び増加に転じた。

大阪府の1年間(平成12年10月1日から平成13年9月30日まで)の人口増加を自然増加(出生と死亡の差)と社会増加(転入と転出の差)に分けてみると、自然増加数は、前年増加数より790人少ない2万5262人、0.29%増となった。

一方、社会増加数は、平成12年のマイナス3万99人、0.34%減からマイナス1万4586人、0.17%減となり、マイナス幅は縮小した。

大阪府の世帯数は、353万1064世帯で、平成12年より4万5154世帯、1.30%増加した。

人口と世帯数の伸びを比較すると、世帯数の増加率が人口の増加率を上回っているため、1世帯当たり人員は2.50人と平成12年より0.03人下回り、世帯規模の縮小化が引き続き進んでいる。

転入と転出

平成12年中の住民基本台帳人口移動報告による大阪府の転入と転出をみると、転入者は平成11年より3526人減少し、17万9141人となった。

一方、転出者は平成11年より5825人減少し、20万5795人となり、この結果、転出が転入を上回り、転出超過数は、2万6654人となった。

年齢構造

平成12年国勢調査による大阪府総人口の年齢3区分別構成をみると、年少人口(0~14歳)は124万9955人、生産年齢人口(15~64歳)は622万4186人、老年人口(65歳以上)は131万5213人で、それぞれの総人口に占める割合は、14.2%、70.7%、14.9%となっている。

年齢3区分別人口の推移をみると、年少人口は昭和50年をピークとして減少しており、平成12年には平成7年より7万1520人、5.4%減少し、総人口に占める割合は0.8ポイント縮小した。一方老年人口は平成7年より26万7338人、25.5%増加し、総人口に占める割合は3.0ポイント拡大した。

また、生産年齢人口は第1次ベビーブーム(昭和22年~24年)に出生した人口が15歳以上に達した昭和40年に総人口の72.5%を占め、その後は70%前後でほぼ横ばいに推移してきたが、第2次ベビーブーム(昭和46年~49年)に出生した人口が15歳以上に達した平成2年に72.7%まで上昇した。しかし、出生率の低下とともに老年人口の急速な増加により、近年は低下傾向を示している。

次に、平成7年から平成12年の5年間の5歳階級別人口増加率をみると、100歳以上が133.5%増で最も高い増加率となっており、次いで、95~99歳(89.8%増)、90~94歳(66.2%増)と続いている。

一方、最も高い減少率を示しているのは、45歳~49歳の26.2%減で、次いで、20~24歳(21.6%減)と続いている。

労働力人口

平成12年国勢調査による労働力人口状態をみると、15歳以上人口753万9399人のうち、労働力人口(就業者+完全失業者)は444万5438人で、労働力率(15歳以上人口に占める割合)は、59.0%である。

一方、経済活動に従事していない家事従事者、通学者、高齢者などの非労働人口は289万8325人であった。

人口動態

本府の出生率の推移をみると、第2次世界大戦直後の昭和22年から24年頃までは、人口千人に対して30前後の高い率を示していたが、その後は低下を続け、32年に15.2とそれまでの最低を記録した。翌33年から上昇に向かい、42年には、23.2となり、以後、横ばいの状態が続いていたが、47年からは再び低下傾向を示している。

平成12年の本府における出生数は8万8163人、出生率(人口千対)は10.2(全国9.5)となっている。

一方、本府の死亡率の推移をみると、昭和22年に人口千人に対し14.5であったのが、戦後のめざましい医学の進歩、生活環境の改善等により、46年には5.1にまで低下し、以後、横ばいの状態が続いたが、近年は微増の傾向にある。

平成12年の本府における死亡数は、6万1315人、死亡率(人口千対)は7.1(全国7.7)となっている。

また、平成12年の本府における死産数は、2760胎(出産千対の死産率30.4%)、婚姻件数は5万9969件(人口千対の婚姻率6.9)、離婚件数は2万2715件(人口千対の離婚率2.63)となっている。

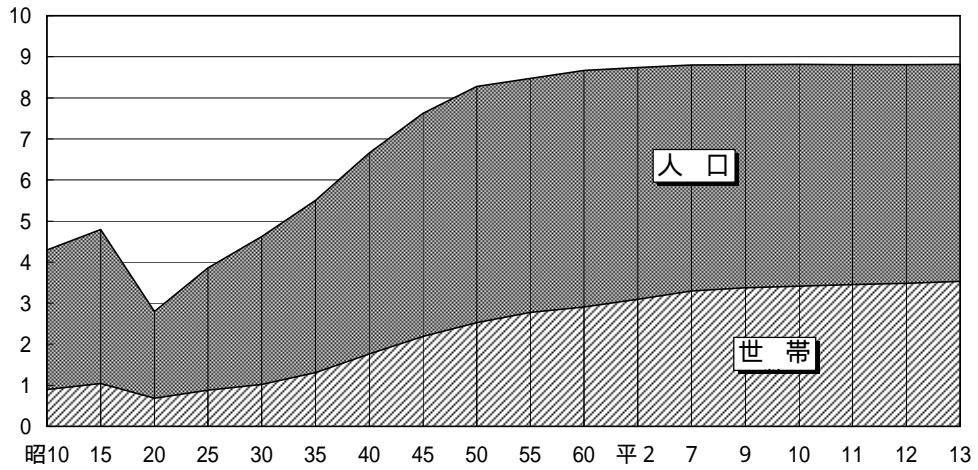
次に、平成12年簡易生命表(厚生労働省作成)によると、日本人の平均寿命は、男子は77.64年で前年に比べ0.54年、また、女子も84.62年で前年に比べ0.63年の拡大を示した。

これを国際的にみると、国により生命表の作成基礎期間が異なるため、厳密な比較はできないが、平均寿命が高い順に並べると、男性は、日本77.64年、アイスランド77.50年、スウェーデン77.38年、そして、女性は、日本84.62年、スイス82.50年、香港82.40年となり、男女とも日本がもっとも平均寿命が長く、世界のトップグループに入っているといえる。

なお、全国的にみると、大阪府の平均寿命は平成7年都道府県別生命表(厚生労働省作成)から、男性75.90年、女性82.52年で47都道府県中(全国男子76.70年、女子83.22年)男子45位、女子45位となっている。

人 口 ・ 世 帯 数 の 推 移

百万世帯・百万人



出生数と死亡数の推移

万人

